

平成 27 年度第1回石狩市学校給食センター運営委員会 会議録

作成：石狩市学校給食センター

【開催日時】 平成 27 年 7 月 21 日(火)午後 6 時 30 分～7 時 33 分

【会 場】 石狩市役所 5 階第 1 委員会室

【出席委員】 (敬称略) 荒川義人、森久美子、村田まり子、釣本明雄、光川眞順、稲垣美樹、安部紀江、青山波留樹、武岡則夫、今村敏之、大浦浩、今野順子、清水 玲、三上正一、中村武史、三島照子

【傍聴者数】 5 名

【事務局】 百井宏己生涯学習部長、成田和幸学校給食センター長、熊谷隆介厚田学校給食センター長、近藤和磨給食担当主査、川畑昌博厚田学校給食センター給食担当主査、新井田栄治給食担当主任、亀川勇花川北中学校栄養教諭

【会議次第】

開会

1 部長挨拶

2 議事

(1) 議事録署名委員の指名

3 報告

(1) 新センター設備の進捗状況について

(2) 学校給食の食材調達について

4 その他

閉会

【会議録】

○ (近藤主査)

ただ今から平成 27 年度第 1 回石狩市学校給食センター運営委員会を開会いたします。はじめに、百井生涯学習部長より御挨拶を申し上げます。

○ (百井生涯学習部長)

皆様こんばんは。給食事業の運営に関しましては、ここにお集まりの皆

様初め多く方々に支えられて進めております。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。また今日お集まりいただきました委員の皆様につきましては給食センター運営委員2年の任期となっております、昨年からお願いしておりました2年目に入ります。ただお仕事の関係で異動された方々を含めまして20人いる委員のうち9名の方が改めて委嘱させていただいております。すでに、9名の方々には委嘱状お送りさせて頂いておりますけれど、改めてよろしく願いいたします。さて、いまさら申し上げることでもないのですが給食と一口に言えない時代になりました。過去から給食に求められる大切さが語られてきたわけではありますが、さらに近年求められるものが高まり、また多様化していることがひしひしと伝わってまいります。具体的に言いますと単に栄養を与えるということではないということは皆様ご承知のことと思いますが、更に安全、安心、衛生面もこれは当たり前の話という時代となっております。近年は食育をどう進めていくかという部分でも、給食は非常に大事な領域になってまいります。さらに給食だけではありませんが、アレルギーの問題も市また学校全体で取り組まなければならない大切な問題となっています。そのような給食を支えていくために給食費を皆様のご理解のもとにいただいて運営しているわけですが、滞納という事務的な問題もあります。そういったことをトータルで考えて進めていかなければならないと考えています。そのためにも多くの皆様のご意見をいただきながら運営を進めるという基本姿勢に立っております。今日、議題の中にもございますけれど、石狩市においては給食センターを新たに建設するという状況にあります。それをひとつの契機にして先ほど申し上げました色々な課題を解決、また各種の充実につなげていきたいと考えております。皆様お忙しいところ今日のご出席に感謝申し上げ、ご審議

を賜りますようお願いいたします。簡単ですがご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○（近藤主査）

議事に入ります前に、この春の教職員人事異動及びPTA役員の改選に伴いまして、一部、委員の入れ替えがありましたので御報告いたします。はじめに、教職員代表のうち、改選となりました5名の方を御紹介いたします。生振小学校校長安部紀江委員、厚田中学校校長武岡則夫委員、花川小学校教頭今村敏之委員、花川北中学校教頭大浦浩委員、樽川中学校教諭清水玲委員です。次に、新たにPTA役員代表として選出された方をご紹介します。石狩小学校PTA釣本明雅委員、紅南小学校PTA光川眞順委員、花川中学校PTA稲垣美樹委員です。本日御欠席の盛重栄司委員を加えた4名が新たに委員となっております。皆さま、宜しくお願いいたします。現在、委員の過半数が出席されており、石狩市学校給食センター条例施行規則第5条第1項の規定に基づき、本日の委員会が成立していることを、御報告申し上げます。それでは、このあとの議事進行を青山委員長にお願いいたします。

○（青山委員長）

皆さんこんばんは。花川南小学校の青山です。お忙しいところお越しいただきましてありがとうございます。円滑な議事進行に努めてまいりますのでご協力をお願いいたします。それでは、会議次第に従って進めて参ります。

はじめに、議事（1）の「議事録署名委員の指名」をいたします。稲垣美樹委員、お願いできますか。

○（稲垣委員）

はい。

○（青山委員長）

それでは議事録署名委員を稲垣美樹委員にお願いいたします。

次に、報告（１）新センター設備の進捗状況について事務局から説明をお願いします。

○（成田センター長）

はい、給食センター成田と申します。よろしくお願い致します。報告の１番目、新給食センターの整備の進捗状況について、でございますが、老朽化が進む本市学校給食センターの整備につきましては、数年前から教育委員会内部で検討及び調査研究などを行ってきたところでございますが、平成 25 年度から「具体的整備に向けた準備」として、現状や課題について「当委員会」に諮問し「学校給食施設の整備の考え方」としてまとめ、その後、抜本的な更新が必要、また、効率的、効果的運用を図るため第 1、第 2 センターを統合する等を内容とする、整備に関わる基本事項を定めた「学校給食施設の整備について」を示すなど、準備を進めて参りました。平成 26 年度には、更なる「具体的検討」を進めるとともに、基本設計及び実施設計を行ったところであります。用地につきましても、これまでの検討結果から市民図書館隣接の用地が最適と判断し、当該用地取得の手続きを進め、本年度平成 27 年度当初予算において用地取得費及び確認申請手数料合わせて 694,302 千円を計上したものであります。なお、今後の予定と致しましては、平成 27 年度 28 年度で建設工事を行い、平成 29 年 4 月から本格稼働できるよう、準備を進めているところであります。

続きまして、「新センターの主な特徴」について、述べさせていただきます。新センターは主に 6 つの特徴がありまして 1 番目に食育の発信拠点でありたいと考えております。健康推進施策との連携、それから市民協

働による体験農園などを通じて食育の発信拠点として活動したいと思っております。それから2点目はおいしい給食を目指しております。自家炊飯で適温適量給食を提供したいと考えております。3番目には食物アレルギー対応として専用調理室設置によりまして代替食給食の環境を整えたいと考えております。4番目には災害対応として炊き出し機能、それから食育室を食事・休憩避難施設などに提供する対応を整えようと考えております。5番目に旧2つの施設、第1センター、第2センターございますけれど建設要件及び維持管理コストなどを勘案して2つの施設を統合して新センターとしたいと考えております。6番目にクリーンエネルギーとして主要な熱源として、従前は重油を使っていたセンターですけれど新センターは北ガスの天然ガスを使ってクリーンなエネルギーで運営したいと考えております。

お手元の資料についてご説明いたします。資料の1ページ、建物概要、敷地概要として、まず、所在地が花川北7条1丁目でございます。敷地面積が、10,946.74 m²でございます。これは準工業地域という用途になります。建物の概要ですが鉄筋コンクリート造の地上2階建1階面積が3,131.90 m²、それから2階が286.56 m²、合計3,418.46 m²の施設となっております。ページをめくって2ページ目。こちらは建物の立地の見取図でございます。この図の左上が茨戸川、左下が市民図書館の駐車場ということで、市民図書館へお越しの方はわかると思いますが、ちょうど図書館の裏手側に市民図書館の駐車場があって空地があります。そこにこの給食センターを建設するわけでありまして、この図面の右下が外来駐車場になっておりまして、センターは正方形の建物になっております。3ページには建物の主な見取図、左上の小さな除外施設というのは排水処理の施設でセンターからちょっと離れたところに建っております。1階の平面

図、主に図面の右側、プラットフォームから食材搬入などを行います。米、肉、魚類、野菜類などを搬入し、物品の検証を行った後にそれぞれ、食品ごとの下処理室、それぞれ食の安全基準に適合するような安全な設計になっております。ちょうど図面の真ん中ほどにそれぞれ炊飯室、揚げ物、焼物室、釜調理室、和え物室、アレルギー調理室などがございます。こちらでそれぞれ調理して、そこで出来上がったものがさらに、左上のコンテナプールのところから各学校へコンテナに入れて搬出するという流れになっております。午後、給食が終わった後は、この左側の洗浄室というのがありますけれど、そこにトラックが戻ってきて食器などをこちらから回収して食器を洗浄して保管して、翌日に備えるということになります。

4 ページの2階の平面図につきましては、空調機械室のみの面積となっています。機械室のため普段人が立ち入るところではありません。したがって新しいセンターはほぼ平屋で事業展開することになります。先ほど3 ページ目の右下に事務室の横に展示ホールがありましてこちらが外来の玄関でして展示ホールの左側に食育室がありますけれどここが会議室のような形になっておりまして、ここで食育の事業などを展開したりすることできるような教室のような部屋になっているところでございます。残念ながら2階の部屋などから調理エリアを広くガラス越しなどでみることはできません。食育室などでビデオ映像により仕事の内容などを紹介するようなことを考えております。新センター建設の今後につきましては先ほども申し上げましたように、今年と来年に建設工事をいたしまして29年の春に本稼動することになっております。センター建設の概要については以上です。

○（青山委員長）

ありがとうございました。今、事務局から説明がありました。これにつ

いて、何か御質問・御意見ございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。今野委員。

○（今野委員）

今野と申します。前回の運営委員会の際に新給食センターでは自家炊飯ということで下ろされてきて、私ども学校にいるものにとっては今までお弁当だったというか、お弁当箱に入ったご飯をこぼさないで一人ずつ、子供たち机に持って行けたのですが新しいセンターでは大きな入れ物に入って各自ご飯をよそわなければならないということがわかったところなのですが、学校側としては新たなことなので指導とか給食の時間とかを考慮に入れていかなければならないことだと思っていますが、今回、お茶碗も新しいものが、ご飯をよそうものとして籠に入ってくると思うのですが、今現在、配膳台にぎりぎりでご飯、お弁当も今ある食器も牛乳もとなると配膳台にはぎりぎりの状態でバットとか上がっているのですけれどそのような状態で、食器が加わってくると心配です。現在、私の勤務校では、重たい食器で低学年など人数が少なく16人が一番多いのですが、2階から食器の入ったカゴを下ろすとき、小学校2年生なので重くて落としそうになるのです。そういう感じで30人学級のところとか2つのカゴに分けてくるのかなと思うのですが、そういうスペースみたいなのはどのように考えられているのかお伺いします。2点目はアレルギー対応をしてくださるということで、今色々な地区でアレルギーの対応をしている給食センターがあり、いいことだと思うのですが新センターではどのへんまで対応、ケアしてくださるのでしょうか。

○（青山委員長）

はい、今2点ご質問ありましたけれども、事務局の回答をお願いします。

○（成田センター長）

はい、まず1点目の新しいセンターでの新しい食器など新しい給食の提供の仕方ということで、今後各教室で炊飯ジャーに入ったご飯を各一人ひとりずつよそのような作業になるかと思います。そのためにご飯茶碗も今度新たに用意したいと思っています。そういった意味で食器も増えます。今の配膳台ではぎりぎりということで、今後は配膳台からあふれる部分についてはどういったコンテナを用意したらよいのか検証を重ね新センターオープンまでにそのものをそろえる形、各学校の皆様と給食配膳の仕方についての段取りのご相談をさせていただきたいと思っています。まず、食器やコンテナが増えることは把握しておりますので、今後、各教室の配膳台についてどういったものを増やすか機器を選定、選考中であります。2番目の食物アレルギーですけれど来年度からの食物アレルギー対応を一段階進めてより厳密な対応をしたいと考えているところでございまして、いわゆる医師の診断がある人たちについて、対象を絞り込むことになります。最終的に個別に一人ひとりどのような対応が必要かということ、そこから本当にアレルギー対応給食、代替食が必要かどうか検証し、見極め提供したいと考えています。新給食センターの調理室もその対応能力に限度がありますのでその辺の見極めが今後の給食センターの作業になるかと思います。以上です。

○（青山委員長）

はい。今野委員よろしいでしょうか。

○（今野委員）

アレルギーについては個人に対応したらすごい数だと思いますので限られてくるとは思います。いまやっているのは牛乳とそれぐらいですね。29年度からであればもうそろそろ検討して頂きたいと思います。よろしくお願いします。

○（成田センター長）

はい。

○（青山委員長）

その他、何かございませんか。

○（荒川委員）

アレルギーは増える傾向にありますよね。石狩市として力を入れるのであれば、増えることを想定して対応しなければならないのかなと思います。新しいセンターはその辺を考慮しながらアレルギー室の面積を広げ考えているのですが、市が重点とするならその辺どうなのかなと思います。今のこのアレルギー対応室で十分なのかどうかお考えをお聞かせください。

○（青山委員長）

成田センター長。

○（成田センター長）

はい。十分なスペースというのは、今考えられることは新施設に占める必要最小限のスペースであります。際限なく増やしますとマンパワー、コストがそれだけかかりますので、その辺の見極めが必要かと思います。アレルギーのお子さんは多種多様ですのでそれら全てに対応する給食は不可能であり、必要最小限での検討が必要と考えます。

○（荒川委員）

事情はよくわかります。市としてこれを重点としておいていたのでそれに見合う、納得できる特色がでているかという質問なのです。必要最小限のルールに基づいている設備であれば、こういう重点項目としてあげていくのはどうなのかなという質問です。

○（成田センター長）

いままでなかった設備なものですから我々も張り切ったところがありまして、単純な除去食だけではなく、代替食が本当に必要な子がいるのであればそこに対応しなければならないと考えております。どれくらい必要か見極めが必要となってきます。

○（青山委員長）

荒川先生よろしいですか。

○（荒川委員）

はい。現状を把握して頂いた方がよろしいかと思います。

○（青山委員長）

その他何かございませんか。安倍委員どうぞ。

○（安部委員）

設計については去年から十分話合われてこれで十分なのでしょうか。ちょっと感想として先ほど6点給食センターの方針として打ち出されたのですがその中で、食育の発信の拠点ということで、他市町村ではなかなか見られない体験農園ですとか、すごく目新しくていいなと思います。新しい給食センターであれば市の目玉になって他市町村から見学ですとか市内の小中学校のこどもが見学にということもあると思います。先ほどビデオで流して作っている工程を見せるという話がありましたがやはり直に見せることで食育の学習ももっと生々しく、子供たちも飛びつくところなのかなと思うので、やはり2階に見学施設があればと思いそのところが残念です。

○（青山委員長）

残念だということですけど。

○（成田センター長）

当初のプランは2階建てだったのですが、検討を重ねた結果規模が

圧縮されましたが、何とか工夫で乗り切っていきたいと考えています。

○（青山委員長）

安部委員さんよろしいでしょうか。

○（安部委員）

はい。

○（青山委員長）

それではその他、何かございませんか。よろしいでしょうか。なければ次に進みたいと思います。

報告（２）「学校給食の食材調達について」、事務局からお願いします。

○（成田センター長）

学校給食の食材調達についてですが、平成 23 年の東日本大震災以降、石狩市では食の安全に配慮し、17 都県から産出される食材については使用制限をかけて運用してきたところですが、4 年が経過し、この間、国や道などからの情報提供も充実してきていることから、このほど、その対応に見直しをかけ、その使用制限の緩和を図ることと致しました。

本市ではもとより地産地消の取り組みを進めており、学校給食においてもできる限り石狩産や北海道産の食材を使用しているところですが、冬期間などにおいては、本州産を調達せざるを得ない状況にもあります。その際に、震災以降は 17 都県を避け、西日本方面の作物を調達してきたものであります。そのことにより、輸送コスト・輸送時間の影響で、価格の上昇並びに野菜の質が落ち、傷みもあり、調理上扱いに支障が出る場合もありました。また、これまでの本市は、他の市町村とは異なり、食材・製造工場・流通経路のすべてにおいて規制した為、取り扱える食材が規制以前より大幅に減少したものでございます。さらに本市では、調達食材を選考する際、放射能検査を行っていますが、その結果、検査料金が食材費

に上乗せされ、食材費高騰の中、さらなるコストアップとなっているところでございます。また、給食内容で見ますと、メニュー・コスト以外にも一日の栄養の必要量に対して、鉄分・食物繊維は7割程度しか充足できていないという現状も明らかになりました。これらのことから、他市町村の動向なども参考にし、皆さまのお手元にお示しの資料の通り、今回、野菜・果物・香辛料・加工品・製造工場・流通経路について制限解除または緩和することと考えているものでございます。この制限解除にあたり使用可能となる食材について例を申し上げますと、香辛料については、胡椒・唐辛子・ローリエ・ナツメグ・パプリカなどの使用が再開できます。乾燥パセリも調達可能となります。これまでは代わりに生パセリを使用していたのですが、時期により虫や異物が多く、当日急遽使用中止となる事も多々ありました。加工品におきましては、蒸し物・揚げ物、また栄養強化入りの加工品、さらに食物アレルギー対応の加工品などについても、震災前まで使用していたメーカーでの製品が調達可能となります。野菜や果物につきまして、緩和することで、取り扱える食材が増え、更なる栄養価の向上・コストダウンにも繋がり、これにより、今まで応じることの難しかった、デザート・ジャム・ふりかけなどの「付き物」の回数を増やし、給食メニュー内容の充実を図ることが可能になります。というのも、これまでPTAなどによる給食試食会などにおきまして、給食メニューに関する意見要望として、「給食メニューのバリエーションに乏しく、同じようなメニューが繰り返されている。付き物がほとんど無く、子供たちの楽しみが減った。クリスマスなどには、以前のようにケーキが欲しい。」などの声が寄せられていたものでございます。なお、言うまでも無いことですが、今後におきましても食の安全に十分配慮が必要であると考えており、それらの対応策としては、具体的には、これまでの繰り返しにはなり

ますが、国や北海道から発信される放射能物質検査の結果情報を基に食材の選定にあたること。さらに、牛肉などの食肉類や魚介類については、納入業者からの産地情報の提供を受け、安全性が確認されたものののみ使用し、確認できない食材については使用しないこと。加工品についても、材料や成分・産地を確認して使用する。北海道以外の食品については、出荷先のモニタリング検査結果が各県のホームページに掲載されているものを参考にして食材を選んで生きたいと思います。以上につきまして皆様のご意見を頂戴しながら決定していきたいと思いますので是非、皆様の忌憚のないご意見を伺いたいと思います。以上です。

○（青山委員長）

ただ今、事務局から説明がありました。これについて、何か御質問・御意見ございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。

○（三島委員）

今まで、食材に関しては放射能測定をしていたけど、今後はしないということでしょうか。

○（成田センター長）

食材を選ぶにあたって提供業者さんから放射能検査済証などをもらっておりまして。そういった検査済証のあるものから選んでおりまして。それは今後も続けていくということです。

○（青山委員長）

三島委員、よろしいでしょうか。

○（三島委員）

わかりました。

○（青山委員長）

その他何かございませんか。はい、どうぞ。

○（今野委員）

この表を見せて頂くと他の小樽市以下は全部制限なしになっていますよね。江別市とか札幌市は三角がついているのですが、今は、ほとんど制限なしになってきて、かえって逆に、ここの福島、茨城、栃木を応援しようという全国的な雰囲気になっていて、この間、台湾が輸出制限といって、国に言ってきたのがすごいニュースとなっていたのを皆さんご存知かと思いますが、そこまでしなくてもいいのに、と私個人では思っていますが、そのような感じで石狩市も運営委員会の皆さんのご意見で福島とかを応援するという気持ちで例えば、胡椒とか原材料はそこで取れているものではなて、加工としてそこを通っているのであれば放射能の心配はないかなと思いますし、さきほどのセンター長さんがおっしゃっていたのは、夏場は北海道産の野菜とか、地場産のものを使うことが主になっていて冬場の無い時期に本州や九州から取ったとき、送られてきたときちょっと傷んでいたことがあり、コストがかかるということであればそちらの制限されているところのものを使ってもやぶさかではないと思いますが、皆さんのご意見はいかがですか。

○（青山委員長）

今野委員さんから皆さんの意見ということもありましたのでいかがでしょうか。はいどうぞ。

○（森委員）

今野さんの意見に全く同じに思います。ちゃんと検査しているものを入手しているということなので、それを前提に不必要な放射性物質に対する恐怖感を子供たちに与え続けるのもいかななものかということもありますので、国の検査、道の検査、そして業者さんが出しているモニタリング検査の結果を信じてやっていくということで、できれば食生活が少

しでもバリエーションが豊かであるということと、家庭の食生活でそこまでチェックしていないのを過敏になることによって食べ物に対する恐怖感を植えつけることになることは給食の在り方の本意ではないと思うので、今野先生のおっしゃっていることは多分ほとんどの方が考えていらっしゃると思うのでこの案に私は賛成です。

○（青山委員長）

ありがとうございました。今、森先生からの賛成ですという意見もありましたけれど他の委員さんいかがでしょうか。

○（三島委員）

私も可能であれば今まで石狩市のやってきたことをやって欲しいと思いますけれど、もしバリエーションがだめであったり鉄分が少ないというのであれば、子供の健康上問題かなと、思うのですが、胡椒、唐辛子、ローリエ、パプリカで鉄分とか何とか無いと言っているのか解消して、あと蒸し上げ加工品を今回制限又は緩和する部分がありますけれど栄養士さんとか学校給食に携わっている人、本当に作る方で携わっている人たちがもう一度よく考えて実行して欲しいと願います。逆に石狩はこういう給食を提供しているのだということがわかるとかえって親たちが安心するのではないかと思います。給食センターからそういう情報が親に行っていないのではないかとという危惧も少々あるのですが、給食の毎月のお知らせにも書いてあるのだと思います石狩市ってこういう給食を出しているんだよという誇れるものがあるのもいいのではないかと思います。

○（成田センター長）

三島委員さんはじめ皆様各委員からご貴重な意見をいただきまして私もそれを真摯に受け止めて慎重に対応したいと思います。特に三島委

員からの情報発信については前回もご指摘を受けているところでございまして、私共も情報発信による相互の理解は非常に大事だと思っておりますので今後も色々工夫して取り組んでまいりたいと思います。

○（青山委員長）

栄養教諭等関係者に意見を聞くというようなこともありました但那点はどうでしょうか。

○（成田センター長）

もちろんその点は、色々関係者の意見を聞きながら、食の安全が一番大事ですからそのへんをよく考えながら対応していきたいと思っております。

○（青山委員長）

その他、意見ございませんか。

○（今野委員）

いまの話は結果としてどうなるのですか。検討していくということで終わるのでしょうか。栄養教諭の先生方はきっと運営委員会の意見を待って加工品とかを使っていきたいと思っていらっしゃるのでこういう提案されていると思うのです。けれども、センターの考え方は曖昧な感じがしたのですが。

○（成田センター長）

前向きに考えて整理してゆきたいと考えます。この場は決定機関ではないものですから皆様のご意見を聞いて、教育委員会、センターとしてどういう方向で行くのか取り組んでまいります。

○（青山委員長）

次回の会議で方向性を示されるということなのでしょうか。

○（今野委員）

前回の会議にもこの話が出ております。栄養教諭さん達は今回で決定して欲しいという希望と思うのですが、どうなのでしょう。

○（百井生涯学習部長）

只今、センター長が申しあげましたようにここは決定機関ではありませんので今日は報告ということで出させていただきます。皆様のご意見をいただいて最終的に教育委員会として近いうちに決定し次回の運営委員会、先の話になりますがご報告させていただきます。方向性はご提案申し上げて運営委員の皆様の賛同はいただいているというふうに思いますので解除していくという方向で行きたいと思います。ただ、努力目標は意見として出ましたので、保護者理解や周知ですね、基本的に市では地産地消とか地元産というものを強く意識しておりますのでその基本は変わるものではない、さらに安全性を最大限重視してゆくということです。それも確認されているとのことですからその方向性で実施に向けて進めたいと思います。できるだけ早く冬場の調達が難しいという現状があるものですからそれに間に合うように決めて行きたいと思います。

○（青山委員長）

今野委員よろしいですか。

○（今野委員）

はい。よろしくお願いします。

○（中村委員）

決定機関、本来決定はどこなのでしょう。

○（百井生涯学習部長）

今回は、教育委員会だと思っています。

○（中村委員）

月1回やっているのですか。それでは今月か来月の教育委員会で決定

するのでしょうか。

○（百井生涯学習部長）

食材に関することは、基本的には給食センターにおいて決定すべき事項と考えています。ただ、重要性や影響度なども考慮し、今回は教育長まで伺いを上げ、その後、教育委員会会議にも報告をしようと思います。

○（青山委員長）

中村委員よろしいですか。

○（中村委員）

給食センターとして何らかの根拠があって決定していたことだと思いますので数値的なものか、文部科学省の基準なのかよくわかりませんがいずれにしても、あやふやなことが無いようにきちんと決定して頂きたいと思います。以上です。

○（百井生涯学習部長）

はい。わかりました。

○（青山委員長）

その他食材調達についてご意見ございませんか。なければ何か事務局からありませんか。

○（三島委員）

前回、給食センターからもっと情報提供をと言ったのですが、広報4月号からですか栄養士さんから情報が発信されています。できましたらもっと作りやすい材料の献立を出していただけるとすごく市民が作ってみようかなという感じになると思うのでよろしくお願いします。それから、子供たちからの反応があったよ、というのもあれば親としてそうなのだなという感じが広報から読み取れて行くと思いますので頑張ってやってください。よろしくお願いします。

○（青山委員長）

ありがとうございます。ご要望ということで、事務局の方でよろしくお願ひします。その他に何かございますか。

○（大浦委員）

花川北中なのですけど、今第2給食センターが併設ということで、それが無くなってこちらに移ると言う話ですけど、第2センターが無くなった跡地はどのようになるかということですね。それから給食センターがないと花川北中学校には配膳室がないのですがその点はどうなっているのか。年間の食数が決められているということですけど、ある学年で190食、ある学年では180食ということで給食費は変わるのですよね。それが個人個人の対応は難しいのですか。

○（青山委員長）

よろしいですか、3点ばかり出たのですけれど。

○（成田センター長）

はい、まず、1点目の第2センターの跡地の利用ですが、跡地利用あと配膳室もそうなのですが、これから市の中でどういったスケジュールで整理していくか検討してゆくことになっています。

○（大浦委員）

白紙だということですか。

○（成田センター長）

今は白紙ですね。どちらにしても、第2学校給食センターはあのままで使えませんので、あれを直して使うのか、取り壊すのか、その辺も全て市の中で、利活用について庁内で検討してこれから対応を考えてまいります。当然、花川北中の配膳室のところは、新センター稼動にタイミングを併せて足りない部分は改修工事など、段取りを考えています。食数です

が、各学校の学年ごとに年間食数を決めてそれで給食費を決めております。個別の取り扱いについては、別に決まりがあります。

○（大浦委員）

予定されていた給食を取らなかった場合、返金しないとか聞いているのですけれど。具体例で言うと、例えば体育の先生がスキー授業のため、その日給食を取らなかった場合でも、給食費は変わらないのですよね。

○（近藤主査）

あらかじめ食材費で発注してしまいますので、例えば一日急にとらなくなったといっても食材はすでに購入しています。センターのルールでは事前連絡があり連続して 5 日以上、例えば入院等の場合には、個別にその分をカットして給食費も差引きます。それ以外ですと全体の対応ということでご理解いただきたいと思います。

○（大浦委員）

急な対応はわかりますが、前々からわかっている場合はどうなのか。

○（近藤主査）

事務的な面になりますが、そこまでは、現在対応していません。

○（大浦委員）

スキー授業で月 4 回、給食をとらないなどあらかじめスケジュールでわかっていることなので対応できそうな気がするのですけれど。

○（三島委員）

他の市町村ではやっているのですか。

○（大浦委員）

前、江別市にいたのですけれど、やってくれました。

○（三島委員）

そうですか。

○（大浦委員）

石狩市の場合、学校で決めているのですか、

○（近藤主査）

本市の場合、行事予定に応じ、花川北中の1年生は年間何食、2年生は何食というふうに学年ごとに食数の報告をいただいていますので、それに応じた給食費を学年ごとにいただいております。

○（大浦委員）

学年でばらけてもいいのですか。1年生が180食、3年生が170食とかでいいのですよね。

○（近藤主査）

はい。学校の行事に応じてそれぞれ食数が変わってきますので、いただいた食数で計算しています。

○（大浦委員）

はい、わかりました。

○（三島委員）

職員室の先生は何人で何食というように決まっていますよね。

○（今野委員）

そうですね。修学旅行に引率でいっても給食費とられます。石狩市はそれが決まりだというのであればそうかなと思います。

○（大浦委員）

そのところ、4食もあれば1千円位違いますので減額してもいいと思うのですけれど。

○（今野委員）

職員は、職員室一括で給食必要人数分ということになっているのです

よね。私はしょうがないのかなと思っているのですが。

○（青山委員長）

私も校長ですけど、会議があつて昼出る場合は、職員室で食べられませんのでそのまま代金を払っています。

ただ、年間を見通した対応はできるのですか。他の市町村ではやっているようですが、石狩市はどうかのでしょうか、

○（百井生涯学習部長）

今、2つご質問があつて、石狩市では給食センターだけではなく集会所を含め市全体の公共施設をどのように継続、維持管理したらいいのか検討を始めました。従いまして、この場で決定事項として申し上げられないのですが、教育委員会と致しましてはという条件で申し上げるならば、今の第2センターを改修して使えるような施設にはないと考えているので、今の第2センターは新センターができたときは取壊しをしようと考えているに思っております。空いたスペースをどのように活用するか今後検討しなければならないということで白紙となっております。大浦先生がおっしゃたように、配膳室と学校がくっついている。そこをどうやるか。新センターが稼動するまであそこは生かしていかなければならないので、来年度具体的に対応するため、今年度中に結論を出さなければならないと思っています。何より現場の意見を聞かなければならないということで、すでに内部では検討を始めました。給食費の関係は課題として受け止めさせてください。先生の部分、子供の部分、保護者に対応しなければならないという課題はあるかもしれません。実際の運営とマッチするかどうかということも、これから研究していきたいと思います。

○（青山委員長）

大浦委員よろしいですか、

○（大浦委員）はい。

○（青山委員長）

それ以外に何かありませんか、

○（三島委員）

センターに関しては設計変更も何もできないというのであれば、たとえば見学のときのビデオ紹介をリアルタイムでやって欲しいというような要望は出してよろしいのですか。例えば防犯ビデオ（ライブカメラ）のようなものを付けてリアルタイムで今、こんな作業をしているよって、「見学にいったら、リアルタイムで見られるよ」と言うような細かな要望はいいですか。

○（成田センター長）

はい、我々もそのような方がいいなと考えているものですから、これから機材の選定の中でそういったことなるべく実現できるような形にしたいなと考えています。

○（三島委員）

体験農園、すごく広いのですけれどすごく心配なのですけど、そのときそのとき要望を出していったらよろしいのでしょうか？

○（成田センター長）

体験農園について今、考えていることは市民協働で運営していこうかなと考えています。センターの職員、調理員、栄養士などは畑の手入れすることは全然できませんので、市民の皆様と協働作業の中で畑の維持管理運営をして行きたいなと考えており、庁内的には今年度、来年度の中で進め方検討して行くという状況になっております。

○（三島委員）

はい。わかりました。

○（青山委員長）

よろしいですか、全体を通じてこれだけをおきたいということはないでしょうか、よろしいでしょうか、それでは、長時間熱心にご意見頂きありがとうございました。

以上をもちまして、本日の給食センター運営委員会を閉会とさせていただきます。みなさんお疲れ様でした。ありがとうございました。

<午後 7 時 33 分 終了>

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 27 年 8 月 25 日

石狩市学校給食センター運営委員会

署名委員 **稲垣 美樹**